



蛙井集

中村俊定文庫
文庫 18
73
2







糖并集卷之五



花之付句之事  
 三物之事  
 向八句之總物之事  
 白紙之分之事  
 賤物之事  
 神祇之事  
 教養之事  
 意之朝之事







くあうり中夜ふくせきしませ  
けりぬるこまの後の月の花は露  
如真

露をたまたまうらふ中夜  
石燈にむらぬ花は露  
高

華装姿の中書立にたり  
時をて群集を主生れ花は露  
定親

月影をのこ思ふ花は露  
花は露の夜のこひあられ  
高忠

月影をうらふ花の露  
月影をうらふ花の露  
宗信

月影をうらふ花の露  
月影をうらふ花の露  
保友

月影をうらふ花の露  
月影をうらふ花の露  
信勝

月影をうらふ花の露  
月影をうらふ花の露  
高忠

月影をうらふ花の露  
月影をうらふ花の露  
貞因



海老の尻尾を食ふは  
子に嫌ひ花よそそこの色

親十

ふわりあつていさく一回答

あそくは花をそそこの色

為親

舟はそそこの種の色

花とぞ酒は風情の酒をいそ

本聲

念ふれば花よそこの色

花よそこの色は花の色

定行

昔よそこの色は花の色

花のいろを人にいふは

松縁

天つち花よそこの色

花よそこの色は花の色

梨

花よそこの色は花の色

酒桶の花よそこの色

花酒

人よそこの色は花の色

花よそこの色は花の色

花酒

花よそこの色は花の色

花よそこの色は花の色

花酒



浪の敷いたうくと丁地  
みきり花の跡は平をぬり  
春極

指れくいとあるはゆゆ  
おし度う昔家道のの花ん  
親を

身中じきふをれまなまはけ  
祇前や湯をぬりすり花ん  
春去

露をいと見すすあわうや  
蜻蛉の花をぬり花うくと  
きり

ろう機の方と道ぬ修羅を

借人の志れど藤家の花は奇  
方春

虫をさきとばは光さり針  
手流るる縁そへぬぬる花衣  
立死

せ死らんむじやう三福お本  
花の家柄立門の標わけぬ  
真逆

ねりひのまに赤るる花返  
継取丁持今年へ花れまはせ  
幸御

風をひくうとさあうらまじ  
鶴伽羅の白ひの志ぬ花見え  
勝絶



こよりの歌をよき歌に立

あまきりし子曰く乃花 乃風

小桶の水はあまきり

ひのくさ花をよき歌に立 宣久

わさこあまきり

信宣ありしあまきり 傍 貞規

琴とあまきり

あまきりあまきり又雲井風 日 方中

あまきりあまきり

磐人也花にほしき 松三

唐乃物言をよき歌に立

あまきりあまきり 生 玄俊

あまきりあまきり

あまきりあまきり 法務

あまきりあまきり

あまきりあまきり 本家

あまきりあまきり

あまきりあまきり 京 立圃



障得をせめては物ゆえを

花より色露電の表えうーあひ

花より色露電の表えうーあひ

月花をせめてお撲にえまけて

あひーあひーあひーあひーあひ

草の露をせめては花より花

花より花より花より花より

うら物にわらわらけき花のさ

あひーあひーあひーあひーあひ

定光

遊喜

知教

一礼

花より右轂の役乃表一連

花より右轂の役乃表一連

花より右轂の役乃表一連

花より右轂の役乃表一連

花より右轂の役乃表一連

花より右轂の役乃表一連

花より右轂の役乃表一連

花より右轂の役乃表一連

花より右轂の役乃表一連

去右

去右

去右

去右

去右



一及鏡のおおたうとあそ

はらへ痔をたのむをそは痔すあて

源乃露にぬを腰織

花乃浪が秋難あお胸一あ

今治の川原さると秋風

あうくとあそる布の花に似て

田邊く身に締あるは湿髪着

名由我をそは花乃花法

新枕あそぬぬあそるあ

後務

常陸

秋十

貞延

月花と花のひき一あう胸に乱

あはれあのみあひひとあうあ

あそあや花あ計れ花のあ

あうあああああああああ

花あああああああ花乃枝

あああああああああああ

花のああああああああああ

あああああああああああ

花のああああああああああ

ああ

定光

松原

是酒

一明



まつり花のつらね

花瓶のうしろのあまの川

親十

花のつらねのわらわ

花のつらねのま

花

花のつらねのま

月の秋のつらね

立圃

雲霧のつらね

花のつらねのつらね

定親

花のつらねのつらね

花のつらねのつらね

孫傳

花のつらねのつらね

月のつらねのつらね

自由

花のつらねのつらね

花のつらねのつらね

香遠

花のつらねのつらね

花のつらねのつらね

宗信

花のつらねのつらね

花のつらねのつらね

宗信



わの春をそく九端海門  
ぬきいそすりき建母の花衣 信揚

月を海をくしおるをあま  
花にそく柳の枝をそく 柳 誓

船の旁に花をそく  
春のうらたの如くまはるり 養

花の宿ひるう源氏の講人  
芳はくさくさく ぬきこれ 信

花軍も肩あやみやゆひの原 光治

何はそもぬのねはあめ  
花のほすのうしはねをむけん 如 真

三十三日すくろくろくぬ  
吹れは花舟に札を打納先 日 為彦

とろとろくさくはなをかり  
極到 花のそくはなをかり 日 信昌

皆れをかりはなを信子  
春類あり月と花の夕極め 信朝



うす記情をりてさあぬ

花に基て春付さう一小色

夏

車をひきし路を歩むに

多むびくおねをいふも花に縁

秋

竹れ筒よもいりおき物

いけ花の大事れを以て受して

冬

刃付にきりお釣籠れ末

幽君は花乃浪男れ月よお

春

何うの科うけりし娘さそ

男うり入りや法れ花乃場

夏

菫の屋をいふ葉に露りきり

花乃枝切なりさあとう月お

秋

月にはやしくさぬじ節

夫人を花をゆりして舞はり

冬

流り男にいふちの世し髪

喜梅を花のまらりさうこれ

春

都を海もまらりたつて

花れ室をいひしりおきし猫

夏



舊友はふるまのまじりて

花に気取せく舊水ゆりり

親十

流るる水れひゆり古川

且の敷奇れ跡皮はるる一花友

遊雲

ふまに一書の家はるる関

花の情れをさるる川よ

親之

度む久敷の急いそむ申

花のりりり使の録をゆて

妙貞

心乃わあをさるる人の親

ゆきといふあ久に花の親

信持

流るるの上めありや雲雲

峰出を一尺る夜にえむ花親

亨之

又も名草まじり花の場

水晴るに水に花の親

定親

流るる水れひゆり古川

花のよゆおろるる水

尚以

しゝぬをるるつゝ水

いふいふ花れ奇舞はれ初芝

林



是より方向の中

鳥と空とて呼吸をた

伸とそとく花邊くふく

船れるさうをたか

よくく近代の花と月のぬ

世の中は跡と武士の

着たれ造る花に照るひて

はらるる海の中を

信房

守安

可重

花衣に花の志をきりぬかりし

雲にまじり立ちし株も

雷と花のつらさをけりし

むとわりの雨の神はあつち

酒のたなにわたすり末はひ

床の空をまじりて

わびしう花見風のそりあり

らあしはを離たたり

花と春の女と逢うたぬれ

憲補

松三

隆云

信房

牛林



いづれもいづれもいづれもいづれも

花の影をかりつておぼろげに

かおほくやきそとをわけ

きうてい位わくくくくく

あかきとみちておぼろげに

あかきとみちの細花の細

くわくくくくくくくく

あかきとみちのあかきとみち

わくくくくくくくく

あかきとみちのあかきとみち

あかきとみちのあかきとみち

あかきとみちのあかきとみち

あかきとみちのあかきとみち

あかきとみちのあかきとみち

あかきとみちのあかきとみち

あかきとみちのあかきとみち

あかきとみちのあかきとみち

あかきとみちのあかきとみち

花行

三友

春雲

冬夜

一礼

花吟

花三

自穂

花友



ひびき水りあつたや  
花乃神人あつた  
露の命をすまひけつく

長

家

鬼のすむ花れぬれりて  
喜納の足は花れぬれ

守安

花の浪をのりて川合戦  
念佛よて書物にさく

一礼

お家さう花りて遠棚  
鳩の秋とやあつたはく

長持

月花母ころあつたをの極  
おまゝいそせはあつた

4

長後

こころあつたはあつた  
おまゝいそせはあつた

長真

正保二年長頭丸宅あて

元日

長撫

腹あつたあつたあつた  
かきんてかきんてあつた  
おまゝいそせはあつた

長武

長吉



同

名てきうーとらふきを此歌の種  
書初とじり例の能者又字  
書金銭たなは海をれ使て

西武  
良徳  
西武

同

腰かじりくを何れも若き時  
富りに何れそよまふ一礼  
永るも後後の酒やまおぬん

西武  
西武  
良徳

元旦

聖例や侍に指せぬかきり松  
鳳凰れ妙又何れも志しれ象  
如陵類れわり物流し何れりて

法務  
本茂  
西武

同

方違事や今朝日の此陸海  
右書のみ又字のうりも筆此海  
切ひよれ物れ返向ふのとあきて

同  
法務  
本茂

同

朝ぬれ鞍のきりやる海丸

同



わらうに帳をさうりまの目 巻云  
巻のりたはれ連行はれひきて 清務

相方

迷憶や神祇教又まをき帯

同字も句八句にまらふ

古人の名を傷や又巻をまら

句八句にまらふ

淋きと寝寝え句八句にま

のそげあまの道なきら

まら林のま子の語三句にま

句八句にまらふ

まらまのまの又二句にま

三句連綿とまらふ

まらや神祇教又句にま

一句や二句に三句にま

迷憶や水色巻の巻の

句に句二句三句に



急の句二句より三句は句を  
はらへ二句をあらぬよりあり  
等物に類多し物りもの  
一有り二句三句は  
國の名も人傳名も食物も  
一有りとも二句は  
藝能や植物時句は  
一句ともより二句とも  
月七の花より三句の句

あつてうらぬ物とて  
月形影法師にて三そあは  
下の句は花二句の節  
月形月より出ぬ  
三句をうらぬ物とて  
夕月帯又月形  
夕月の月形と  
入おをむすひら月形待月  
三句の月形と











賊子何能得

くうかへ 賊の小回まらぬやそれ程  
い賊物子程と教句の方へ  
えそり教句よ用と云ふは  
より子あり故に用と云ふ  
はきいありなり賊物に字  
中二とて娘といふも也賊物の  
字に親はく文字のよき味  
一字露破

まればやふ合のいんういもの  
はらと云ふ字を中と略して  
やふと中と氣子を粉  
を草を名何と字をいし其

二字及三

徳ありて水鶴やたを水は後  
水水を飛とらん也 花を  
繩楊をばふ虫と女表  
らふかゝるふもあけ







竹宮 廣嶋 高姫 結神 野々文ののい

本後ユウタク 起キ後コ 白木ユフ 沖幣ウラハ 又ユラ 後コ

加茂カモ 日吉ヒヨシ 住吉ヅギ 沖ウチ 被カケ 水ミヅ 神カミ 子コ 沖幣ウチハ 幣ハ 意イ

陽ヒツ 雞カキ 郎ロウ 額ヒメ 突ツツ 意イ しシ 子コ 小忌コノノ 衣ユロモ 檜ヒノ 現ゲン

夏ナツ 越コシ 靈レイ 友トモ 流ユ 滴ツ 子コ 七ナナ 意イ 末マタ 越コシ 友トモ 友トモ

友トモ 續ツグ 浪ナミ 連レン 繩ヅナ 戎ヤマト 日ヒ 待マツ 常トコ 津ツ 茅チ 之ノ 木キ

沖ウチ 田タ 守モリ 八ヤチ 守モリ 祭マツル 利リ 生ナマ 宗ムネ 意イ 水ミヅ 水ミヅ 意イ

白シロ 幣ハ 意イ 幣ハ 意イ 蛭ヒル 兒コ 神カミ 沖ウチ 衣ユロモ 神カミ 意イ

新ニホ 矣ヤ 意イ 神カミ 意イ 沖ウチ 生ナマ 意イ 神カミ 意イ 楊ヤウ 意イ 神カミ 意イ

神カミ 在シ 神カミ 意イ 沖ウチ 代タテ 神カミ 意イ 三ミ 角ツノ 柏カシ 太オホ 神カミ 意イ 三ミ 柏カシ 太オホ 神カミ 意イ

沖ウチ 念ネン 神カミ 意イ 清スミ 水ミヅ 意イ 天アメ 之ノ 岩イハ 戶ド

日ヒル 靈レイ 女メ 神カミ 意イ 天アメ 照テ 大オホ 神カミ 意イ 日ヒル 沖ウチ 繩ヅナ 神カミ 意イ 天アメ 岩イハ 舟フネ 神カミ 意イ

埴ハニ 山ヤマ 娘メ 神カミ 意イ 烟ハク 守モリ 神カミ 意イ 天アメ 叢ソウ 雲ウン 劍ケン

彼カ 波ハ 切キ 劍ケン 意イ 十トウ 柄カ 劍ケン 錦ニギ 車クルマ 太オホ 神カミ 意イ 沖ウチ 神カミ 意イ

細ホソ 月ツキ 細ホソ 女メ 天アメ 照テ 大オホ 神カミ 意イ 賽カイ 神カミ 意イ 神カミ 意イ 川カハ 社ヤ 神カミ 意イ

宮ミヤ 步フ 宇ウ 津ツ 田タ 娘メ 神カミ 意イ 津ツ 祭マツル 神カミ 意イ 倒タ 幣ハ 意イ 神カミ 意イ

尖オカ 宮ミヤ 津ツ 田タ 月ツキ 次ツギ 祭マツル 意イ 倒タ 幣ハ 意イ 神カミ 意イ

社ヤ 意イ 多タ 井イ 揚ヒル 出デ 之ノ 繩ヅナ 神カミ 意イ

九月クニノイハ 十一ユヅ 日ヒ 下シ



八咫鏡

三種の神器の内の一つに因侍也天照太神  
天の岩戸をさぐり鏡を射りたる日一  
日神の  
作らざるありたりを射りたる鏡也昔は神  
鏡天よありんと志すありと女官の神ふ  
けきそよりありとあり今日に因侍  
女官の守護仕なりと鏡おなまひ  
神鏡の神とて大和のま

湯津丸根

熊田姫の  
髪也

大道日奇

神楽の曲と云り大道日奇宿道の心あり  
一の言合の何群長内理心紙作の言  
大道日奇直あり心と細とありと

非神祇

糸座 作保娘 大黒 男山 楊娘  
新宮 止垣 天物

歌女

葩 花家 鳥 浦 次 世 佛 入 法 師  
指 主 神 拍 房 官 比 丘 尼 尼  
尼 公 入 道 布 袋 法 神 法 服 經  
法 衣 家 後 心 陪 雲 僧 歌 襟 袴  
掃 子 室 鐸 律 宗 流 轉 行 和 尚



長壽 厭世 看經 喝令 雲山  
 漢義 聖廟 堂塔 祀師 率於婆  
 功地 素絹 常燈 頭陀 念佛  
 聖蹟 燒瘁 舌垢 世界 大衆 入於法  
 其申 心月 補陀 落伽 又山  
 阿伽 阿圓 梨核 切系 十德 彼界  
 出衆 門路 龍傲 鬼在 符符 符符  
 攝教 妙人 室戶 腕香 燒心 際每

餐入 新婦 入姿 見鏡 老眼 助心 慈心  
 慈念 麻飛 手掛 石思 指指 付指 益  
 惡阻 膝布 湯具 耳合 無空 爲  
 肥解 孕空 慌面 馬計 實股  
 扶肘 坊主 比翼 中燒 胸胸 胸胸  
 新聖 屍目 百媚 二世 焚耳 焚  
 情振 汗流 髮心 氣落 爲中  
 如髮 切脫 子あ 後家 小指 切眼 話  
 膨指 若若 若氣 若氣 若氣 若氣



織染思

方<sup>カ</sup>常<sup>フ</sup>女<sup>キ</sup>交<sup>キ</sup> 帯<sup>ヨ</sup>遠<sup>イ</sup> 煙<sup>ヨ</sup>連<sup>レ</sup>理<sup>リ</sup>中<sup>ナ</sup> 意<sup>ニ</sup>慕<sup>ホ</sup>  
<sup>ツ</sup>过<sup>シ</sup>石<sup>ラ</sup> 念<sup>ニ</sup>者<sup>ハ</sup> 海<sup>ナ</sup>面<sup>ニ</sup> 海<sup>ナ</sup>中<sup>ニ</sup>云<sup>フ</sup> 胸<sup>ウ</sup>襟<sup>リ</sup>  
<sup>ウ</sup>胸<sup>ウ</sup>火<sup>ヒ</sup> 腔<sup>ウ</sup>借<sup>ト</sup> 法<sup>ウ</sup>邪<sup>カ</sup> 白<sup>ウ</sup> 淫<sup>ウ</sup>母<sup>ノ</sup>狂<sup>キ</sup> 後<sup>ウ</sup>妻<sup>リ</sup>  
<sup>フ</sup>幻<sup>ナ</sup>列<sup>レ</sup>深<sup>ミ</sup> 帯<sup>フ</sup> 梳<sup>シ</sup> 枕<sup>シ</sup> 薰<sup>ル</sup> 二<sup>ス</sup>心<sup>コ</sup>前<sup>ノ</sup>後<sup>ノ</sup>間<sup>ノ</sup>男<sup>ヲ</sup>  
<sup>シ</sup>密<sup>シ</sup>通<sup>ス</sup> 化<sup>ケ</sup>粧<sup>フ</sup>文<sup>フ</sup> 爲<sup>ル</sup>伊<sup>ダ</sup>達<sup>テ</sup> 爲<sup>ル</sup>病<sup>ニ</sup> 爲<sup>ル</sup>瘦<sup>ニ</sup>  
<sup>ヒ</sup>川<sup>ノ</sup>社<sup>ヲ</sup> 月<sup>メ</sup>交<sup>セ</sup> 誓<sup>ヒ</sup> 誓<sup>ヒ</sup> 男<sup>オ</sup>無<sup>ク</sup> 至<sup>シ</sup> 至<sup>シ</sup>  
<sup>シ</sup>思<sup>ル</sup>人<sup>ヲ</sup> 社<sup>シ</sup>香<sup>カ</sup>爐<sup>ロ</sup> 枕<sup>シ</sup> 香<sup>カ</sup>爐<sup>ロ</sup> 曉<sup>ア</sup> 別<sup>レ</sup> 無<sup>ク</sup> 二<sup>ス</sup>道<sup>ニ</sup>  
<sup>シ</sup>乱<sup>レ</sup>髮<sup>ヲ</sup> 情<sup>シ</sup> 彩<sup>シ</sup> 爪<sup>ツ</sup> 彩<sup>シ</sup> 見<sup>ル</sup> 羞<sup>ハ</sup> 悔<sup>シ</sup>  
<sup>ソ</sup>空<sup>ラ</sup>糖<sup>ダ</sup> 假<sup>カ</sup>言<sup>ト</sup> 執<sup>シ</sup> 契<sup>リ</sup> 仇<sup>ウ</sup> 片<sup>カ</sup> 思<sup>フ</sup> 爲<sup>ル</sup> 枕<sup>ト</sup>

合<sup>カ</sup>服<sup>フ</sup> 羞<sup>カ</sup>云<sup>ト</sup> 傾<sup>キ</sup> 水<sup>ミ</sup> 爲<sup>ル</sup> 祝<sup>ヒ</sup> 悔<sup>シ</sup> 羞<sup>ハ</sup> 悔<sup>シ</sup>  
<sup>シ</sup>粧<sup>シ</sup> 侍<sup>シ</sup> 女<sup>メ</sup> 郎<sup>ノ</sup> 中<sup>ナ</sup> 人<sup>ヲ</sup> 化<sup>ケ</sup> 粧<sup>シ</sup> 羞<sup>ハ</sup> 悔<sup>シ</sup>  
<sup>シ</sup>女<sup>メ</sup> 男<sup>ヲ</sup> 侍<sup>シ</sup> 每<sup>シ</sup> 月<sup>ツ</sup> 音<sup>シ</sup> 無<sup>ク</sup> 彩<sup>シ</sup> 神<sup>カ</sup> 物<sup>モ</sup> 怪<sup>ケ</sup>  
<sup>シ</sup>妹<sup>イ</sup> 立<sup>ツ</sup> 徒<sup>ラ</sup> 胸<sup>ウ</sup> 文<sup>フ</sup> 云<sup>フ</sup> 稱<sup>シ</sup> 月<sup>ツ</sup> 際<sup>ノ</sup> 物<sup>モ</sup> 怪<sup>ケ</sup>  
<sup>シ</sup>寢<sup>シ</sup> 物<sup>モ</sup> 徒<sup>ラ</sup> 長<sup>ナ</sup> 髮<sup>カ</sup> 文<sup>フ</sup> 字<sup>シ</sup> 夢<sup>ム</sup> 起<sup>キ</sup> 寢<sup>シ</sup> 守<sup>ル</sup> 宮<sup>ノ</sup> 猴<sup>ノ</sup>  
<sup>シ</sup>咒<sup>シ</sup> 咀<sup>ク</sup> 口<sup>ク</sup> 说<sup>ク</sup> 口<sup>ク</sup> 吸<sup>ク</sup> 柳<sup>シ</sup> 腰<sup>ノ</sup> 含<sup>ム</sup> 額<sup>ノ</sup> 握<sup>ル</sup> 心<sup>ヲ</sup>  
<sup>シ</sup>私<sup>シ</sup> 語<sup>ル</sup> 去<sup>ル</sup> 下<sup>シ</sup> 細<sup>シ</sup> 自<sup>レ</sup> 相<sup>シ</sup> 子<sup>ヲ</sup> 爲<sup>ル</sup> 死<sup>ニ</sup> 旅<sup>ヲ</sup> 借<sup>ル</sup> 尻<sup>ヲ</sup>















若造 非若造 若造 クハ 水鶴 クハ

月暎 フク 躬 カク 剛如法 カク 五明妓 カク

久宅難 クダ 本後高日 ムラ 別高日 ワケ 雞 ニトリ

心星 ココロ 是打 ウチ 團 クマ 東雲 トウ 燭 カク 卷 マク 捲雲 マク

挿頭 サカ 花 ハナ 起 オキ 蝙蝠 カバ 山 ヤマ 曼 マン 光 ヒカリ

多 オホク 日待 ヒツマテ 小夜中 コヨナカ 夜 ヨ

圍 イリ 花火 ハナヒ 養 ヤウ 起 キ 寝 ネ 鴉 カラス 下 シタ 紋 イテ

衾 フシ 蒲團 フスマ 香 カ 下 シタ 紋 イテ

人傳

都人 トウ 侍 サマ 門 カド 跡 アト

京 キョウ 出 デ 前 マエ 雜 ザツ 職 シヨク 二 ニ 月 ツキ 月 ツキ 二 ニ 換 カヘ 鼓 ツヅミ 背 セ 在 ア 於 ニ 此 ココ 也 ナリ

在 ア 以 ニ 姪 シメ 嬰 オウ 兒 コ 孤 コ 子 シ 之 ノ 貴 キ 士 シ 獨 トク

案 アン 內 ウチ 女 メ 德 トク 服 フク 日 ヒ 連 ツラシ 月 ツキ 女 メ 婿 ムコ 背 セ

長 チカ 者 ヤ 一 ヒト 翁 オウ 當 トク 千 チ 年 ネン 男 ヲ 賣 ウ 傍 ホ

乳 チ 人 ヒト 地 チ 以 ニ 家 カ 主 ヌシ し シ 女 メ 子 コ 伯 ヲ 父 チ 之 ノ 母 ハハ

伯 ヲ 母 ハハ 室 シヨ 人 ヒト 必 カナラ 氣 キ 合 アヒ 奏 ソウ 唱 カク 合 アヒ 橋 ハシ 人 ヒト 之 ノ 傍 ホ

若 ニ 所 トコロ 危 ヤブ 危 ヤブ 公 キミ 比 ヒ 丘 ケ 危 ヤブ 下 シタ 贈 オウ 兒 コ

女 メ 子 コ 妻 ウメ 下 シタ 女 メ 子 コ 妻 ウメ

女 メ 子 コ 妻 ウメ 下 シタ 女 メ 子 コ 妻 ウメ

女 メ 子 コ 妻 ウメ 下 シタ 女 メ 子 コ 妻 ウメ

女 メ 子 コ 妻 ウメ 下 シタ 女 メ 子 コ 妻 ウメ











みんげんは又二の付心もたて  
まゝも登りしけとも記と子  
りて下と身は指しり花の  
心付く身はなりしるも入  
らぬ二句の流りともあはら  
みして一の付心もつらふ  
なるといふ

あすりて醫者脚り虫の虫服

付心  
うまうしとたふお薬もはらう

日  
るあじと難お親に娘あり

一の付心あまを給らう

虫服あつらひの付心

おいもまゝもあまあ

あ一誰とあしあま

なり二の付心二能あて

あまあまもつらう

あまあまあま

たふらわしてあまあまあ



付句

かりゆいしきそをいふら子

日

縁てしりりおろ子あふ

右の付句意離えむい

此のあふにおをこしぬ付

心せよとていふま

常にぬや罷乃あつもの

付句

親孝れをよにゆかすらひ

日

厚れそと報もあふ海心

右の付句玉祥河水上片

川氷摸心あてけりる

入右後好むはぬわし福と

昔の付句付らる可也二の

付句非言事なぬぬ

あさ海一に付はよし地

浅く水波を流すは雲人

付句

ふんくと身はるは吹かて

日

深遠深中風通はる海子

一の付句意をいふ故ふと



つゝ寢かゝるくとも  
若くは又敷れやと  
声又敷のあつて出かゝり  
しとつゝかゝるといふ處  
指さして我かゝるといふ  
なまじい處を指しておきり  
なら付やうら二の付句  
寢かゝるは寢かゝる  
ふかゝるは寢かゝる

心付とあつての親もあつて入

孫句

なまは寢かゝる今もいふ所 難波の  
分句  
ぬりかゝるは寢かゝる寢かゝる  
曰  
つゝ寢かゝるは寢かゝる  
一の付句あつてはこれより  
あつては寢かゝるは寢かゝる  
あつては寢かゝるは寢かゝる  
わづらひかゝるは二の付句



衣服指一おのきくくはま  
あしけあに付く難故  
うしんうしん

仰りちすゆり侍此 家

<sup>付</sup>所を色を赤く切りて

曰 天下ぬいそをかきぬきつひ

右の付向すゆりといふ  
すうりておひに付くは  
しんいんを侍れ

まごおのしん

二の付向いおゆり

つみおをうつしひ

ぬくをうつしひ

みおをうつしひ

たつはみおをうつしひ

侍勝なりきありあひ

<sup>付</sup>流石屋の爺と嬢

けい付さうりあめらと







ひさしうー産をたれ一旬ありあ  
やうにふれを家道ちやうりて  
信とく初んはあさうーあひ  
満ちすえあぬものなるをその  
つと満ちをありて服より括めて  
えん一旬の付らむ思ふ一して  
はなれらうーうーうーを  
ありとひいたのまぬ返り出  
る時いぬ白れはあて我とれを

句は有りたかどかたり作者中  
わらけうーあせ又う時その  
産み産多たかあまうい由せとも  
数句守三月花の句あり遠  
色なく母出りあせうせ

産後うかうやあまうあ  
うらう掃落まゆと信あて  
あうの信んをうてあう  
あうのひまう地作の流産にありと



新戲球のししし句をいふり  
付のめおまにさる事ありし  
竹物いぢれとさるひてあつし  
しにんをたかし字のいぢえ  
めし我家ぬわおしとのいぢえ  
ひの作ぬ

傍のせむいぢらありたり

其家の事ぬやえおあししし  
やうられとをたかしらの陰に

たらし若と舞を好はよたれ  
あり初心のい石亀のあし  
すりせしとをぬくしぬに  
としりぬいしりぬとてぬぬに  
身をうしあぬたしひよをわり  
たる今家ぬ書かるとかしと  
人のいぢれ事ぬわしぬと  
しぬぬのすぬぬぬぬぬぬ  
ぬりもいぬぬぬぬぬぬぬ



寬文拾一<sup>辛</sup>亥曆

正月吉辰

近江屋次郎右衛門開板



